

# Newsletter

JAN. 2000

http://www.aack.or.jp

## 目次

### 紀行

白き山マウント・レーニア

阪本 公一 1

### 山岳研究

群馬県の山々前編

岩瀬 時郎 5

### 特集

「西堀かるたカレンダー」

購入と配布ご協力をお願い

井上 潤 7

### 随想

「ヒュッテ回想」

近藤 良夫 8

### 報告

梅里雪山関係報告会と慰労会

9

笹ヶ峰ヒュッテ完工

9

関東新年会

10

追悼 小浜 隼人

谷口 朗 10

追悼 小浜 小屋

笠原 大四郎 10

追悼

塩瀬 捷一郎 11

仲間の真ん中 小浜を失つた記

酒井 尚平 12

### 編集記

12

## 白き山 マウント・レーニア

阪本 公一

### 一. 期間

一九九九年八月二日～二九日

### 二. 目的

マウント・レーニア

四三九三メートル登山

(アメリカ合衆国ワシントン州

マウント・レーニア国立公園)

### 三. 隊の構成

「登山隊」計十五名

(L) 須藤 建志 (JAC/京都支部)

(L) 京都岳人クラブ)

(SL) 吉村 千春 (JAC/広島)

(SL) 広島山の会、AACK)

(M) 阪本 公一 (JAC/京都)

(M) 京都山岳会、AACK)

秋野 子弦 (JAC/京都)

朝倉 英子 (JAC/京都、京都山岳会)

伊藤 寿男 (JAC/首都圏、AACK)

井上 潤 (JAC/京都、AACK)

上田 潤三郎 (JAC/京都)

佐藤 典子 (JAC/京都、京都山岳会)

田中 昌二郎 (JAC/京都、AACK)

坪山 淑子 (JAC/首都圏、

ミリオン山の会)

能田 成 (JAC/京都、AACK)

能田 直子 (JAC/京都)

福崎 賢治 (AACK)

吉岡 和平

「ハイキング隊」計四名

(L) 酒井 敏明 (JAC/京都、AACK)

酒井 幸子

田中 佐智子

宮川 ふみ江 (JAC/京都、

京都山岳会)

### 四. 概要

紺碧の空に浮かび上がる白き山。シアトル空港から眺めるマウント・レーニアは実に秀麗な山である。三年前にエクアドル・アンデスのチンボラソン峰を登りに行った際、行き帰りの飛行便乗り換えの時に眺めたマウント・レーニアは、実に印象的であった。

マウント・レーニアは、アメリカ最大の氷河を持つ独立峰で、アメリカの西海岸に有るカスケード山脈の盟主である四三九三メートルの活火山である。二六の放射線状にかかる谷・氷河を持ち、氷雪域は百七平方キロメートルにも達し、アラスカを除くアメリカ合衆国最大の豪雪地帯で、何時見ても白い氷雪を抱く秀麗な独立峰は、現地の日系人から「タコマ富士」と呼ばれている。又、マウント・レーニアは、アメリカ人として初めてエヴェレスト登頂者になったジム・ウイタッカー始め、この山の登山ガイド出身でヒマラヤ遠征で活躍した数多くの登山家を生み出してきた。ガイドの主催する登山学校は、五日間のコースで基礎訓練から登

頂までの一環セミナーで、ノーマル・ルートから登る人達の殆どが入るらしいが、参加費が一人約六三ドルもかかる。貧乏人の我々は、出来ればガイドなしで自分達だけの手作りの登山をしたいと、海外登山のベテランの須藤さんと、吉村さんにリーダーを御願ひし計画を推進する事にした。昨年暮れに、広島の吉村さんより、今年の八月にレーニア登山を实行しようとの誘いかげがあり、新年早々早速準備にとりかかることになった。気心の良く解った親しい山仲間のチームで、安全且つ楽しい山旅をしようと、一九九六年のチンポラッソの仲間、それに広島市民登山講座で須藤さんや、吉村さんと一緒にミニヤコンカやメキシコのオリサバ峰に出かけた山仲間に絞って声をかけた。十人前後位のパーティと考えていたが、マウント・レーニアに惹きつけられる人が多いのか申込者は三人になってしまった。

二三日の好天を狙って登頂したので、レーニア山の近くの街に有るモーターを借り切つてベースにしようと、一月始めからモーター探しを始めた。出来れば自炊出来る台所のついた部屋も三、四つ欲しい。しかし、十室もまとまってあいているモーターがなかなか見つからず、ファックス、e-mail、電話でアメリカのモーター探しに四苦八苦。二月中旬によくレーニア山の南に有るPackwoodと言つ街（登山口のパラダイス迄車で約三十分）にあるTatoosh Motelと言つモーターを予約出来た。須藤さんに航空券の手配を御願ひしたが、八月二日・二八日は未だハイブーク・シーズンと言つことで、安い値段が出てこず、おまけに座席の予約がなかなか出来なかつた。最終的には、八月中旬になるまで、フライトが確定せ

ず、須藤さんには随分と苦勞をかけさせてしまつた。

出発迄に、十分なトレーニングをしておこうと、五月末には富士山で雪上訓練、六月中旬には金比羅で岩登りトレーニング、そして八月初めに打合会。その他、個人グループで、剣岳、雨飾岳、富士山、錫杖岳、大山等の個人トレーニングが行われた。出発直前になって、体調を壊し残念ながら参加出来なくなつた人が四名。結局、参加者は、登山組十五名、ハイキング組四名、合計上記の十九人となつた。

#### 五. マウント・レーニア国立公園

八月二日十六時四五分関西空港より十六名がMCO九六便にて出発し、シアトル着同日九時二十分。成田より、伊藤、坪山、福崎の三名がM二七便にて十七時三十分出発、シアトルに十時着。ハーツで、セタン二台、七人乗りミニバス二台を借りて、十時四十分出発するも、途中で何度か道を間違え、PackwoodのTatoosh Motelに着いたのは十五時四十分になってしまった。Packwoodはレストランが三軒、スーパーマーケット一軒、人口約三千人の小さな田舎町。近くに大きな、キャンピングカー専用のキャンピング場がある。Tatoosh Motelは、広い敷地に平屋建が点在する十四室しかない小さなモーター。でも、広い中庭、緑の芝生と美しい花壇が気持ちよい。約二十人程入れる集会場とジャクージ（野天風呂）も自由に使わして貰える。簡素だが清潔な部屋と、気さくな主人のリチャードの暖かい配慮が何よりも嬉しい。

翌二日（日）は、先ず共同装備及び個人装備の点検。その後、偵察を兼ねパラダイス近辺のハ

イキングに出かけた。九時四十分モーターを出て、ホワイトリバーゲートより標高一六四七メートルの登山口にあるパラダイスに行く。マウント・レーニア国立公園の入園料は車一台あたり十ドル（この領収書で、一週間の出入りが可能）。樹林帯が切れるあたりにあるリフレクション・レークと言つマウント・レーニアが湖面に映る美しい湖があつた。湖の対岸の森の上に聳えるマウント・レーニア。正面にニスカリー氷河、そしてその右に緩やかな広大なミューア・スノウフィールドの雪面がキャンプ・ミューアへの稜線へと広がる。日曜日の為か、パラダイスの駐車場は超満員。レンジャーの事務所で登山届けを提出する。「十五人のパーティですか。困りましたね。この山では、安全登山の為パーティは十二人迄と言つ規則があるんですよ。」と係官。「憧れのマウント・レーニアに登りたいと日本からはるばる来たんですよ。何とかありませんか。」氏名、住所、パスポート番号、所属団体、個人装備、共同装備ときちんとタイプしてくれてますね。書いてある登山歴から見ても参加者全員そこそこの経験者の様ですので、方法を考えましよう」と係官の粹な計らいで、七人と八人の二つのグループと言つことで二枚の登山許可書を発行して貰つ事になった。

入山日八月三日、最終下山日八月二五日。登山ルートは、「Paradise」「Camp Muir」「Inglaham Glacier」「Disappointment Cleaver」（通称Dルートと呼ぶらしい）。登山料金一人十ドルを支払い、許可書と下山届けを受け取つた。「七人と八人の二パーティですよ。上のキャンプミューアのレンジャーに文句言われないうちに、テントも二グループに離してうまく行動して

下さいネ。明日、明後日の天気は安定してまずから、楽しいクライミングを楽しんで下さい。」非常に気持ちの良い、好青年のレンジャーに感謝・感謝。

マウント・レーニアでは、自然環境保護の為人間の排泄物(大便)は、登山者の責任で持ち帰る事になっている由。一人一個のグリーンバッグを無料で支給される。足らなくなったら、キャンプ・ミユアーでも貰えるとの事。使用済みのグリーンバッグは、キャンプミヤーに備え付けのバッグ回収用の缶に入れるか、自分で持ち帰らねばならない。登山届けを出した後、パラダイスより、約二時間程のんびりとハイキングをした。ハイキング道の両側には、アバランチ・リリー、紫のルーピン、グレイシャー・リリー、レッド・ヒース、ルピナス、ペイント・ブラシ等の高山植物が咲き乱れる。その向こうにニスカリー氷河が急角度の階段となり白い山頂へ突き上げる。最高峰のコー



リフレクション・レークから眺めるレーニア峰

ンピア・クレストは、ここから見えない。ジブラルタル・ロックから降りてくるCowitz Cleaverの末端に小屋が見える。あれがキャンプ・ミユアーのようだ。Cleaverと言つ英語は、日本では殆ど使わない用語で、英和辞典でも「裂く物。割る物。肉きり包丁」としか書いてない。二つの氷河を仕切ると言う意味から、どうも「岩稜」を指すらしい。

#### 六、登山記録

八月三日(月)いよいよマウント・レーニア登山開始。七時四十分モーターを出て、パラダイスの駐車場にて荷物を整えた後、九時二十分に出発。須藤/秋野/上田/福崎、吉村/坪山/吉岡、能田成/直子/井上/田中員、阪本/伊藤/朝倉/佐藤の四組のザイル・テントパーティに別れて歩く事にした。パラダイスからスカイライン・トレイルを歩き、約二時間足らずで、右手の尾根の上にてだ。紺碧の空にニスカリー氷河が伸び上がっている。ここから、ペブルクリーク・トレールと言う左手の道を取り三十分も行くと、氷河がでてきた。傾斜のややきつい雪壁を越えると広い雪面となり、パラダイス氷河から傾斜の緩い幅二百メートルの広いミユアー・スノーフィールドとなる。吹雪かれたら、大変だなあと思いながら、単調な雪面を、ズッポでただただ歩くのみ。登山学校の二十人近いグループが、ガイドに叱咤激励されて重荷を担いでもの凄いスピードで登ってくる。こんな馬鹿ピッチで歩いて、バテないのだから? 右手の岩稜上のアンビルロックがすぐ近くに見えるが、なかなか近づかない。日が陰りだし、ジブラルタル岩壁の岩稜の裾にあるキャンプ・ミユアーに着いたのは、十六時二十分だった。

稜線のカウリッツ氷河側の雪の台地にテントを設営。須藤パーティは、約五十分程送れて到着した。キャンプ・ミユアーには、稜線上にレンジャーの小屋、ガイド用の小屋それに登山学校用の小屋と、一般登山者用の避難小屋(二五人用)が建っており、三つのトイレが有る。明日のアタックは、十二時出発だ。夕食を終え、アタックザックに明日の装備を準備して仮眠に入ったのは八時を過ぎてしまっていた。

十一時起床。緊張のせいだが、皆一、二時間位しか眠れなかったようだ。アイゼンを付け、ヘルメットをかぶり、アンザイレンして十二時二十分テント地を出発。キャンプ・ミユアーの東側のカウリッツ氷河に降り、懸垂氷河のしたまで少し登って、そこから右手の方にあるカテドラル・ロックのとりにつき迄氷河をトラバース。気温はそれほど低くない。撰氏「三度位だろうか。約三十分足らずでカテドラル・ロックの岩の切れ目のガリーのガレ場にうまくつけられた登山道にでた。アイゼンをとって標高差約百メートルの急坂道に登ると、コル(カテドラル・ギャップ)に着く。このコルから、カテドラル・ロックの東側を巻くようにトラバースして行くと、イングラハム氷河に降り立った。クレパスの間に甲子園の十倍位の台地があり、イングラハム・フラットと呼ばれる幕営地点である。テント二張り有り。イングラハム氷河を横切るように東へ東へと歩くとDisappointment Cleaver(失望の岩稜)に行き当たる。今年は、雪が多かったのか、クレパスの状態は良好で有り、またいだり、飛んだりして簡単に越えられた。通常、ジュラルミンの梯子で越えねばならぬ箇所が何カ所があるらしい。

落石、氷の崩壊が多く時々不気味な音が聞こえてくる。このあたりの危険箇所を心配していたが、北アルプスの縦走路程度の状態の登山道がきちんとついであり、アイゼンをぬいで割と楽に登りきる事が出来た。岩稜にでて、うっかりと右の方に歩き岩稜の東側にトラバースしてしまったが、後から登ってきた登山学校のガイドに間違いを指摘されて引き返し、岩稜の西側を巻くようにつけられた登山道を登る。途中から、クラストした雪がでてきたので又アイゼンをつける。ジグザグにうまくつけられた急登のトレースをあえぎながら登る。もう、岩稜の頭かと思うと又急な雪面が現れた。「失望の岩稜」とは、うまく名付けたものだ。左手のジブラルタル・ロックがほぼ同じ高さとなってきた。東の空が白みだした六時頃に、広い雪面の台地の失望の岩稜の頭(約三千七百メートル)に着いて大休止。ヘッドランプを消す。ここまでは暗い中を歩いて来たので、それほど時間の経過が感じられなかった。雪を五十センチメートル程掘った穴の中に、寝袋に入れられた二人の登山者が寝ころんでいる。ここまででパテテしまった登山学校の参加者である。

ここから頂上迄、未だ七百メートルもある。左手には、高さ十五、二十メートルのセラック、正面から右手の急な雪面をクレパスを避けながら登る。赤旗がついており、トレースもはっきりしている。ただ登っているだけで良いが、一度吹雪かれたらルートを見つけるのに大変なところだ。日が昇ってきて、いっぺんに暑くなる。右左とジグザグにつけられた急登のトレースをたどる。暑くなると、疲労と眠気が一挙にできたのか、皆の歩くペースもガクンと落ちて来た。クレ

パスが次々に現れ、右に三百メートル行き、今度は左に三百メートルと歩いていて距離の割には高度が上がらない。外輪とおぼしき大きな岩のあるピークが見えてきた。ここから、更に大きく左手、即ち西側の方に巻くようにトラバース。ガイドたちのパーティが降りてきた。「頂上はもうすぐ。おめでとう」と声をかけてくれる。でも、ここからが、本当にしんどかった。ようやく外輪についたと思ったら、最高峰のコロンビア・クレストは、火口のただだっ広い盆地の遙か向こうにあった。

「阪本さん、登山学校は、この外輪の地点を頂上としてここまでしか登らないらしいですよ」と朝倉さん。朝倉さんもしんどいのだろう。でもここで弱気を出したら、頂上は登れない。後のパーティは、未だ登って来ない。「休まずに、行きましよう」と強引に歩き出す。火口の真中あたりで、疲れがどつと出て来て足が重い。「ザックは、ここにおいて行きましよう。伊藤さんカメラ頼みます」と歩き出すも、二百メートルも行くと、「ザイルが重いから、ザイルはここにおいて行こうよ」と伊藤さん。無言で一歩、一歩登る。コルについたら、もう頂上は、目と鼻の先。伊藤、朝倉、佐藤、阪本と四人で手をつないで広い稜線を歩き九時四七分頂上に到着した。感激の一瞬である。遙か向こうの外輪に他のパーティがようやく着き、火口の盆地の方に歩いて来る。「コロンビア・クレストの頂上の上で四人がビックルを振って、他のパーティを励ますも皆かなりしんどそう。四五歩歩いては、休む人。途中で立ち止まって思案している人。頂上の風は強い。我々四人は、下山にかかる。途中で、元気に登ってくる能田直子さんとすれ違ふ。「ガンバッテ。もうすぐだよ」。途中

で、ザイルと荷物を回収して、対岸の外輪に着く頃には、全員最高峰のコロンビア・クレストに登頂していた。おめでとう。全員十五人登頂だ。

十一時外輪より、下山にかかる。昨晩は、殆ど寝ていない事もあり、皆相当疲れている様子。安全に降りよう。雪が腐っていてアイゼンに雪の団子がたびたびつく。スリッパしやすい状態なので、タイトロープで確実に確保しながらコンティニューアスで慎重に歩く。須藤パーティは、元気良く遙か下の方を走るように降りて行く。随分遅れて、失望の岩稜に着いたら、須藤パーティは、気持ち良さそうに昼寝をしていた。元気の良い、須藤パーティの四人は、キャンプミューアのテントを撤収して今日中にパラダイス迄下山すると言う。私たち四人のパーティ及び他の二パーティは、相当疲れており、歩く速度もかなりペースが遅く、無理をすると事故につながり兼ねない。今日は慎重に暮营地迄降りて、明日下山する事にし、ジッヘルにゆっくりと失望の岩稜の急傾斜を下った。イングラハム氷河に降りたつと、カテドラル・ロックのコルにて大休止してキャンプ・ミューアのテント地に帰着したのは十六時二十分になっていた。須藤パーティは、我々がキャンプミューアに無事到着するのを待つて、パラダイスに下山していった。

ラーメンの夕食を取ったら一度に疲れと眠気がでて、各テント共に七時前に寝てしまった。

夜半より、風が非常に強くなり、テントがグイグイと風で押される。朝方には、風速三十メートルを越える強風となり、張綱も殆ど飛ばされ、中に人が寝ていたのにテントごと五十、六十センチメートル動かされていた。強風で倒れそうになっ

たテントの中で苦勞して軽い朝飯を食べ、裝備をザックに収納してからテントを飛び出し風に飛ばされそうになるテントを撤収する。三張りのテントの中、私の軽量テントとAACXの古いエスバースのポールが折れ、布地も破れてしまった。テントが古かった上に、フライを使わなかったのが原因ではと思われる。八時にキャンプミュージアに別れを告げ下山。少し降りると風は嘘のように弱くなった。広い傾斜の緩やかな雪面をぶらぶらと歩く者、尻セードを楽しむ者。何時しか、ガスが出だし、視界が悪くなってきた。気がついたら、傾斜のきつい雪面に降りてしまっており、川が流れ出している。どうも、右側に来すぎてニスカリー

氷河の側壁の方に降りて来てしまったらしい。未だ時間は十時前なので、無理せずオーソドックスに登って来た雪面を登り返すことにする。二十分ほど登り返したところで、三人の若者に出会う。彼等も、間違つて同じように右側に来すぎてしまったらしい。三人は、カナダから昨日来て、今日登頂の予定だったが、天候悪く今回はあきらめて下山する途中との事。三人の中一人は、元マウン・ト・レーニアのガイドだったらしい。三人が東側のガレ尾根を乗越してトレースを見つけて来てくれた。丁度、最初の急な雪壁が出てくる箇所であった。登りの時に感じていたが、これだけ広い雪面では視界が効かないと本当に怖い。

十二時過ぎにパラダイスに無事降り、モータールに帰っている須藤氏に電話を入れ、レンジャー事務所に下山届けを出す。七人と八人の二パーティーの全員が登頂と記入して報告すると、「本当に全員？ソウ、それは、素晴らしい。おめでとう」とレンジャーに祝福の言葉を貰った。パラダイスホ

テルのバーで取りあえずビールで乾杯。うまい。その晩は、モータールで大バーベキュー。パーティーの祝賀会を行った。十五人全員が登頂。無事安全に下山出来て本当に良かったと、みんなの顔も喜びでほころんでいる。

レーニア峰は、標高は四三三メートルとそれほど高い山ではないが、非常にスケールの大きなパラエティーにとんだ魅力的な山であった。我々の登ったのは「ロートル」と呼ばれるノーマルルートであったが、トレースが無くて自分たちでルートを開拓するとなるとかなりルート・ファイディングの難しくなるルートである。

持参した共同裝備は、テント四張り、ザイル四本、スノーバー二本、デッドマン一個、旗竿二本。日本からガス・カートリッジを飛行機で運べないので、プリムスのカートリッジ及びノズル（日本のノズルではアメリカのカートリッジに合わない）それに旗竿を、六月に一時帰国されたニューヨーク在住の川瀬裕史氏（AACX）にタコマのスポーツ店で買い求めて、モータールにデポして貰った。（川瀬氏は、七月末より体調芳しくなく、残念ながら参加出来なくなり大変お気の毒であった）。

二六日より帰国までは、ヤキマのワイン工場見学、サンライズにハイキング、マウン・ト・ヘレンハイキング、それに釣りなどのんびりとした休暇を楽しみ、最後はシアトルの街を見学してそれぞれ皆満足して、成田組は八月二八日に、関空組は八月二九日にシアトルを発ち帰国の途に着いた。

尚、今回の登山計画に当たっては、マウン・ト・レーニアに登りに行かれた日本山岳会京都支部の

白井和美さん、京大山岳部〇〇の杉山茂（グズラ）さん、北九州市役所山岳会の菊沢真一郎様より貴重な資料をご提供戴いた。

#### 追記

今回の参加費用は、関空発二二万円、成田発二二万円で交通費、現地での飲み食い等全ての費用をまかなう事が出来た。

（一九九九年九月十八日受理）

## 群馬県の山々

岩瀬時郎

群馬の山と言えば、先ず谷川岳、そして赤城、榛名、妙義の上毛三山が有名です。しかし、他にも結構面白い山が沢山あります。その多くは日帰りが可能です。温泉の多い県ですから、合わせて楽しむ事ができます。この二日程は、群馬の山々を多少歩き回ったので、以下紹介したいと思います。

### Ⅰ. 榛名山・奥中央部の山

#### 〔榛名山〕

榛名山は、山頂に周囲約五キロメートルの榛名湖（海拔約千メートル）があり、その周りに多くの山があり、山頂までケーブルのある榛名富士を除き、静かな山歩きが楽しめる。

また、榛名湖は「湖畔の宿」の歌の舞台であり、竹久夢二のゆかりの地でもある。高崎からバスで一時間二十分程である。

掃部ヶ岳(一四四八メートル)

カモンガタケと読み、標名の中で一番高い。シヨキングシユースで出かけたが、思わぬ深い残雪に苦労した。ラッセルに時間をとり、杖の神峠から杏ヶ岳に登る予定であったが又の機会にし、湖畔へと下る。標名湖は岸辺近くを除き大部分は水に覆われている。今日の宿は標名湖畔の「ロマン亭」だ。(H10.3.28)

標名天狗山(一一七九メートル)

天狗信仰が篤く修験の山として知られ、途中石祠や石仏が多い。この日は盛夏を思わせる暑い日で林道脇を流れる小川の涼が救い。山頂には小さな赤い鳥居。駆け降りると標名神社の随神門の脇に出る。千四百年の歴史を持つ門前町は、昔は繁盛したであろう土産物屋がひっそりと並んでいた。(H10.7.4)

水沢山(一一九四メートル)

淡川の町から見るとヒノミッド型にそそり立つ水沢山は、標名山系の東にある寄生火山である。高崎よりバスで一時間、麓には水沢観音があり、近くには名物「水沢うどん」の店が並んでいる。観音堂の左手から急坂を標高差約六百メートル程登ると緩やかになった尾根に十二体の石仏が並んでいる。前はカヤト、日溜まりのホツとする所だ。ピークはさらに十分ほど先である。北西の方向に下っていくと雪が多くなる。林道を渡り、ひっそりとした伊香保森林公園の中を歩く。梢にはヒガラだるうか、チチツと群れている。二つ岳の鞍部から伊香保へと下り、温泉で汗をながした。(H11.2.6)

昨夏、野反湖のパンガローが快適だったので、今年も標名湖畔のパンガローをベースにして、周

囲の山に登った。(H11.7.17-20)

杏ヶ岳(一二九二メートル)

昨年三月に掃部ヶ岳に行った時残り残した山で、杖の神峠の反対の南側にある。峠までは湖畔から林道を歩くこと約一時間。ここから樹林の中の山道を登りピークを一つ越えると頂上だ。今にも降りだしそうな気配で眺望はよくない。帰りは来た道を引き返す。登りには気が付かなかったユウスゲが一輪ひっそりと咲いていた。(H11.7.17)

相馬山(一一四一メートル)

相馬山はイルカの頭の形をした山で、遠くからでもよく判る。湖畔よりユウスゲとアヤマの咲く標名高原の木道を通ってスルス峠に出る。しばらく尾根道を行くと、ヤセオネ峠からの道と合流、赤い鳥居が立っていてここから急な登りとなり、途中鉄バシコや鎖場がある。頂上の御籠堂には、修験者だるうか大声で祈祷していた。この日は終日雨だった。(H11.7.18)

二つ岳(一三四三メートル)

標名湖の東に、二つの丸いオワンをふせたような雄岳・雌岳が並んでいる。ヤセオネ峠の駐車場から苔むした石段状の急な登りとなる。天候のせいもあるが、ジメジメした陰気な所だ。雄岳の山頂にはアンテナが立っているが、雌岳の方はひっそりと石祠が一つあるだけだ。下りは森林公園の中を通り伊香保へと下った。(H11.7.19)

〔上越沿線の山々〕

子持山(一二九六メートル)

吾妻川が利根川に注ぎ込む合流点の北西部に位置する山で、以前から気になっていた山だ。上越線敷島駅から歩きだす。約二時間で子持神社の大

鳥居に着く。沢沿いの道を登り、稜線に出ると僅かだ獅子岩、この上からの眺望は素晴らしい。子持山へは更に一時間程歩く、振り返ると獅子岩がスフィンクスのように見えた。(H11.3.6)

小野子山、十二ヶ岳

(一一〇八メートル、一一〇二メートル)

子持山の西側に位置している。子持山の帰りに北側から見ると、小野子三山と言われているとおり、小野子山、中の岳、十二ヶ岳の三山がくっきりと見えた。近いうちに歩きに行こう。

上州三峰山(一一三三メートル)

上越線後閑駅の北東に平らな頂を南北にのび、周囲は急な崖になっている。頂上近くにカタクリが、山頂の三峰沼にはミスバシヨウが咲いていた。(H10.4.17)

二、西上州の山(県南西部)

〔下仁田周辺の山〕

下仁田へは高崎から下仁田電鉄で約一時間。今はネギとコンニャクが有名であるが、昔は結構栄えていたようで、城跡、関所跡等が往時を偲ばせる。泊まった旅館も昔は立派な料亭であった事を思わせる造りだ。

小沢岳(一〇八九メートル)

上州のマッターホルンとも言われ、その姿は顕著で遠くからでもよくわかる。下仁田駅前から、町営の「坊主淵」行き小型バスに乗り終点で下車。しばらく渓谷に沿った静かな林道を歩く。山頂には大日如来の石像が安置されており、眺望が素晴らしい、赤城、標名、妙義、上越国境の山々、浅間、八つ岳。(H10.5.23)

黒滝山(八七〇メートル)

山の中腹に黄檗宗の黒滝山不動寺があり、直ぐ下の駐車場までの道が八月末の豪雨の傷痕が生々しく、アスファルトはめくれ上がりひどい荒れ方だ。不動寺から登山道に入り間もなく岩場に出る。クサリやハシゴが取り付けられており、直下に不動寺がよく見える。山頂付近には三三体の石仏が祀られていた。(H10.9.19)

物語山(一〇九メートル)

頂上近くに聳える岩峰はメンバ岩と言われ、この地方でウドンを打つ時に使うメンバ板を立てかけた様だという事からその名がついたという。天正一八年豊臣方の攻撃を受けた北条方の幽崖城(現在の下仁田)城主多目周防守長定は城を後にし、山中に逃げ落ちフジツルを頼りにこのメンバ岩に登りツルを断ち切って身を潜めた。翌朝目覚めるとそそり立つ岩の上、下りる手段はなく長定以下の将は小田原の方を向いて腹を切ったという。



小沢岳

下仁田から車で十分。荒れているが静かな林道を小一時間程歩くと登山口。山頂からは直下に本宿の町並みが見え、荒船、妙義、浅間等と見晴らしはよい。(H10.11.7)

四つ又山(九〇メートル)

下仁田富士の異名のある四つ又山は、山頂が四つのピークからなっているの

が、下仁田の町からよく見える。五月初旬には地元ではヒトツバナと呼ぶアカヤシオが見事だという。頂上には神宮像が立っている。(H11.5.22)

この他にも下仁田周辺には、登ってみたい山々が幾つかある。いずれも高さは千メートル程度だが、山頂は岩峰となっている。鹿岳(一〇一五メートル)、立岩(二六五メートル)、烏帽子岳(二八二メートル)、稲倉山(二七〇メートル)などである。

〔その他の西上州の山〕

妙義山(一〇五七メートル)

妙義山は、中木沢右岸の金鶏、白雲、金洞の三山を「表妙義」、左岸の山塊を「裏妙義」という。裏妙義の縦走コースは一度歩いてみようかと計画している。

荒船山(一四三三メートル)

荒波に漂う船のように見えることから、この名がついたと言われる。アプローチが不便なことからハイカーに人気があるというので敬遠している。

## 「西堀かるたカレンダー」

### 購入と配布ご協力をお願い

井上 潤(昭和二九卒)

笹が峰ヒュッテ竣工おめでと。ヒュッテは立派に再建され、先輩から受けた「ハード」を後輩に引き継ぐことができましたが、次はヒュッテで

われわれが学んだこと、例えば自然について学ぶと共に、自然の中でどのようにふるまうか、などの「ソフト」をどのように後輩や世の人々に伝えるかが課題と思います。

ACKSの大先輩西堀さんは、山や探検はもちろんエンジニアとして巾広い分野で数々の業績をあげられました。いま関西で西堀さんの薫陶を受けたエンジニア達が、「西堀かるた」を使って、西堀先生の思考 行動 成果を世の人に伝えたいと、調査したり、高校や大学で「西堀かるた」の話をしたり、品質管理学会の研究会で「西堀かるた」に関する発表をしたりしています。

西堀先生が創設された「モチベーション研究会」通称ミ研は、ACKSの先輩近藤良夫先生が引き継がれ、来年は三百回を迎えます。ミ研メンバーは「西堀かるた」の卓上カレンダーを作り、「読むと元気がでくるカレンダー 西堀かるた 2000」として二千部試作し、各界の方々に配布をします。ACKSの諸兄もぜひ購入し、お使いください。販売価格は一部七百元です。ACKSホームページにも掲載します。

この機会にこの紙面をかりて、モチベーション研究会の「西堀かるた」活動記録のいくつかを紹介させていただきます。

「西堀カルタ」は、(い)石橋をたたけば渡れない、から始まる西堀流のユニークな金言集である。一九九六年の品質国際会議(1996 YOKOHAMA)では英訳NISIBORI MAXIMを配布した。一九九七年オランダのNISIBORI MAXIMS討論会を実施、意外なことには四八句のうち八四%が分かったと言っ予想外の理解度に首をかしげたが、反面大きな喜びと励ましになっ

た。一九九八年には韓国語、中国語、インドネシア語訳をつくり、一九九九年にはフランス語訳が出来た。

一方国内では、高校生や大学生達の西堀カルタに対する反応もユニークである。

桐陽高校（静岡）の生徒達は、創造芸術科の時間を使って、西堀カルタを読み、その意味をくみ取り、解説書を読んでそれぞれの句に自分達のイメージで絵を描き、自分達の西堀カルタ絵を作り、それを地元の郵便局に展示した。この絵は、滋賀県湖東町にある西堀栄三郎記念の探検の殿堂にも一ヶ月展示され、その後湖東町の図書館にも展示された。その間学校を挙げての支援と賞賛があったとのことである。

創造学科の先生の説明によると、ごく普通の生徒でも、ある光を当てると急に輝きはじめて、活発な生徒になり、それが仲間広がったことが多くあった。その体験から「本当の学力とは何か？」という課題を提起した。西堀カルタは、深い体験から抽出されたものであるため、西堀カルタを読むと「元気がでる」ことが多い。

桐陽高校生はどのように元気づけられたのであろうか？彼らの好きな句を拾ってみよう。

若い時の夢はかなえられる

勇気を持って挑戦を

馬鹿と大物が新しいものを作る

ひとに喜ばれることは善である

不良の山は宝の山

忍術でもええで

つまらぬことにこだわるな

思いもよらぬことは起こると思え

ああ そりゃいい考えだ

人生は実験なり

石橋を叩けば渡れない

でる杭を伸ばせ

上役よ幅役になれ

などである。

乳幼児の育児に悩むお母さんの声にこのようなものがある。

育児においていろいろ悩むことが多く、躰とは何かと考えてしまいます。そんなとき西堀カルタを見ると、まるで育児に悩む親が子どもに対して知っておかねばならないような言葉が次々に出てくるではありませんか。

ポジティブ フィードバックで調子にのせよ  
チャンスを与えよい部下に

つまらぬことにこだわるな

なんでもやろう バイオニア精神

体験で生きた知識を

まず誉めよ

上役より幅役になれ

出る杭を伸ばせ

欠点を長所に替えて育てよう

人生は実験なり

勇気をもって挑戦を

もともと西堀カルタの選定にあたっては、ビジネスに携わる者への語句を選んだつもりであったが、西堀栄三郎の世界はもつと深遠であったようである。西堀語録の中に秘められた西堀流のエンジニアリングの思想・哲学は、人々の心にバイオニアワーク、信頼による協力の精神を蘇らせ、人生の岐路における決断、問題解決などこれからいろいろな場で、その真価を發揮すると思っ

「西堀かるた」の語句は、モチベーション研究会メンバーが病床の西堀先生に見てもらってお墨付きをもらった経緯があるが、かるたの絵の方はあとから考えて付けたものである。もつと面白い絵が登場してほしいと願っているので、諸兄で絵心のある人は是非参画してほしい。

また語句の解釈、すなわち西堀さんがどんな機会に、どんな思いでその言葉を出されたのかを出来るだけいろんな方から聞き出して、記録にとどめたいとの思いがあり、その作業も進めている。「石橋を叩けば渡れない」などいろいろな解釈が出来るのでその意味では難解である。「石橋を」については、川喜多二郎先生の「西堀流問題解決法」の一文に西堀先生との対話を挟んだ貴重な記録がある。AACsの諸兄も西堀語録の体験的解釈を寄せていただければ大変ありがたい。

外国語訳についても、インターネットを通じて世界へ発信する予定ですが、まだまだ完成されていないので、ご協力ください。

（一九九九年十二月三日受領）

## ヒュッテ回想

近藤 良夫

私をはじめて笹ヶ峰のヒュッテに入ったのは、一九四一年三月、三高の一年生の時であった。吉良龍夫先輩と二人で、鉄砲打ちの亀が同行した。幸い連日の好天に恵まれ、スキーと四つ爪のアイゼンで、妙高、火打、焼と続きさまに登って春山を満喫した。十七才の疲れを知らぬ頃であった。

AACsがサルトリコカリに遠征隊を送る前、一

九五〇年代の後半に、私は三年ばかり続けて、山岳部のスキーのコーチを頼まれてヒュッテに入った。ある年はサルトリコを目指してトレーニングと称して、隊長に予定されていた四手井綱彦先輩と二人で、ヒュッテから乙見山峠を越えて小谷温泉を目指した。雪が重く、とうとう小谷温泉の対岸の疎林のなかでヒバークを余儀なくされたが、二人ともとても元気であった。

また別の年には、笹ヶ峰では雪が足りないから、高谷池まで登って合宿しようということになり、二十名あまりの大舞台でヒュッテを出たのはよいが、黒沢岳の近くから、雨が吹雪きに変わり、当てにしていた小屋も見つからず、全員ツエルトや雪洞で二晩を過ごし、三日目の快晴を待ってヒュ



黒姫山

ッテまで逃げて帰った経験もあった。数人の新人生は軽い凍傷にかかったが、幸い全員元気だった。私は一九六二年から六四年まで米国のミシシッピに留学した。帰国してからしばらくは、夏休に家族旅行をする習慣がつづいた。一九六五年の夏には池ノ平から笹ヶ峰を訪問したが、ヒュッテの傍の樹にロープの一端を結んで、カラビナにぶら下がって滑る遊戯に小学生だったこともたちは打ち興じていた。

秋にヒュッテを訪問したのは、こんどの竣工式が始めてであった。私の脳裏には、笹ヶ峰のヒュッテにまつわるこれらの体験が、ちょうどフランス映画「舞踏会の手帳」のように浮かんで消えた。しかしそれらは過ぎた日々の感傷的なものでなく、すべてそれぞれに楽しい場面ばかりであった。(一九九九・二二・一〇受領)

## 梅里雪山関係報告会と慰勞会

関係者への報告会および慰勞会が開催されました。

日時：十二月十一日(土)

AACK報告会 午後一時～四時

場所：芝蘭会館

内容：今年の収容作業の報告、発見状況の整理、来年の方針についての議論

家族への報告会、慰勞会

午後五時半～六時半：報告会

午後六時半～八時半：慰勞会

場所：京都センチュリーホテル

### 出席者

AACK報告会(午後一時から)

上田 豊、上尾庄 一郎、伊藤宏範、岩坪五郎、人見五郎、清水 浩、中山茂樹、中川 潔、小林尚礼、睦好正治、山田和人、原田道雄、永田龍、木村雅昭、吹田啓一郎、新井 浩…計十五名

家族報告会(午後五時半から)

上尾庄 一郎、伊藤宏範、岩坪五郎、人見五郎、清水 浩、中山茂樹、中川 潔、小林尚礼、睦好正治、山田和人、吹田啓一郎、新井 浩、岩坪れい子…計十三名

慰勞会(午後六時半から)

上尾庄 一郎、伊藤宏範、岩坪五郎、岩坪れい子、人見五郎、清水 浩、中山茂樹、中川 潔、小林尚礼、睦好正治、山田和人、新井 浩…計十二名

家族出席者

井上夫人一名、工藤両親他四名、米谷両親二名、近藤夫人一名、大井一名、笹倉両親二名、広瀬両親二名、船原両親二名、宗森両親二名…計十七名

## 笹ヶ峰ヒュッテ完工

笹ヶ峰ヒュッテの完工式ならびに祝賀会は予定どおり十一月六日に挙行された。

開会の辞

司会 吹田啓一郎

祝 辞

京都大学副学長 宮崎 昭

妙高高原町町長 岡山紘一郎（代理） 竹田清  
（助役）

感謝状贈呈

京都大学総長 長尾真から改築委員会へ  
（代理で宮崎副学長から田中山岳部長へ）

挨拶

笹ヶ峰ヒュッテ改築委員会・山岳部部长 田

中二郎

閉会の辞

司会 吹田啓一郎

祝賀会

閉会の辞

挨拶

笹ヶ峰会を代表して 上尾庄一郎

笹ヶ峰会 平井一正

改築実行委員会 小澤良夫

乾杯 近藤良夫

（歓談）

雪山賛歌 中島道郎

閉会の辞



完工なった新笹ヶ峰ヒュッテ

ヒュッテの前途を祝福することがとき素晴らしい  
好天に恵まれ、ヒュッテは満員となり、歓談、合  
唱は深夜に及んだ。

### 関東新年会

恒例の関東新年会を開催いたします。

日時 平成二十二年一月二十四日（月）

場所 新日鐵代々木倶楽部（旧山谷寮）

会場電話 03-370-3141

会費 実費七千円程度

### 追悼

谷口 朗

昭和三十三年 学生時代から四十二年間変わら  
ぬ山仲間であった小浜君謹んでお別れの言葉を申  
し上げます。

三日前の台風の日君はいつも一緒に山に登るゆ  
っくりとしたペースで天国に登っていったのでし  
ようか。

あれは今年の四月の終わりの事でした。胃に  
何かしみる感じがすると言って我々の仲間に促さ  
れやうと医者にみてもらったのは、即入院、即手  
術とのことでしたが結局四ヶ月に亘る長い病院生  
活になりましたね。

その間我々仲間の度々の訪問にいつも元気な姿  
で応えてくれました。さすがに酸素マスクと手術  
後の抗ガン治療にはちよつと参っていたようでは  
したが、それでも九月初めには無事退院自宅から元  
気な声で電話をくれましたね。これからは自宅で  
ゆっくり療養し回復に努める気持ちが伝わり皆で

ほっとしたものでした。

小浜君丁度十年前の脳出血から奇跡の回復をさ  
れ、涙ぐましいハビリの結果我々と山登りが出  
来るまでになりましたね。

君の八ヶ岳大泉の山荘に仲間が集まり夏には君  
も一緒に登るのが毎年の行事となりました。南ア  
の仙丈ヶ岳に始まり北八つ・横岳・瑞牆山・編笠  
とすすみ今年八月末に権現に登る予定でした  
ね。

我々はいつものまにか他の人に追い越されること  
はあつても、絶対に人は追い抜かないというオバ  
マ流ペースの山行が習慣となりました。

小浜君君にとつてのこの十年は人生の仕上げに  
ふさわしい素晴らしい年月だったと思います。仕  
事への完全復帰、三人の子供さんのご結婚、初孫  
の誕生、新居の完成 それにも増して奥さんへの  
感謝の日々。君はもう十分に役割を果たされまし  
た。

君がたった一つやり残した我々とゆっくり山へ  
登ること、これは我々がオバマペースの山登りを  
続けることで引継いでゆきます。残された御家族  
とも我々はこれからも家族ぐるみのお付き合いをさ  
せて頂きます。

小浜君 四十二年間の想い出はつきません。長  
い長い間の変わらぬ友情を本当に有難う。

ゆっくりとおやすみください。さようなら。  
平成十一年九月二十七日

### 小浜小屋

笠原大郎

予ねてより小浜氏の病気に関する仲間への連絡

は谷口氏が引き受けていた、その谷口氏より一九九九年九月二四日九時三分付けのメールで「小浜さん、今朝ご逝去との連絡。小生の自宅に今はいった由、取りあえず皆様に連絡します、谷口」の報告を受けた時はまさかの思いで一杯でした。八月二四日にお茶の水にある順天堂病院に見舞った時は手術を控えていたとはいえ、いたって元気な様子でした。何を持って行こうかと友達に相談したとる週刊誌はどうかといわれ馬鹿正直に週刊誌を恐る恐る差し出したところ、貴兄はそれは良いと明るく言ってくれたのを思い出します。それが最後になってしまいました。

思えば十年前一九九〇年の一月に私が中国の天津で脳梗塞で倒れに帰国してリハビリ中に貴兄も脳溢血で倒れたと病床でしられました。その後貴兄は順調に回復され特に言語の回復は目覚しかったことを思い出します。リハビリ後難しい放送に出演し、さらにエッセのニューズ解説委員長の仕事を務めるまでに回復したのは私は勿論のこと皆様にとっても驚異のことでした。その後貴兄が八ヶ岳に山小屋を持っているので一緒に山へ行かないかと誘ってくれたときは、それまでリハビリの為、東京周辺の山へ日帰りで登山していた私は躊躇無く賛成し毎夏貴兄の小屋のお邪魔することになってしまいました。貴兄の場合は頭脳と言葉は明晰でしたが、脚はリハビリ中でした。私の場合は頭脳と言葉がリハビリ中で、手足はほぼリハビリ終了でした。小浜小屋は女主人の気さくな人柄と主人の大きな所為もあって、東京周辺のAAOの岳友ばかりか、関西からの岳友も集まって大変賑やかでした。小浜小屋から貴君と登山した山は横岳、編笠岳、権現岳、瑞牆山などが鮮明

に頭に残っています。貴兄がリハビリ中の脚にも拘わらず懸命にのぼられた姿が印象的でした。

貴兄の社会での輝かしい足跡の説明は舌足らずの私などの出る幕ではありませんが、学生時代の山行でほぼ体重が同じでザイルパーティを組む機会が多かった私の貴兄にたいする信頼感が貴兄の人柄によるものであることは私自身が一番よく認識しています。どうか生き残った私達を其処にいくまで見ていてください。

合掌

## 追悼

塩瀬捷一郎

九月二四日の朝、谷口クロチャンからのメールを開いてビックリ仰天した。

「小浜さん逝去」とある。ウソだろう。そんな馬鹿な！然し、悲しい事実だと確認したら何だか体中の力が抜けた。

退院前に会った時のあの嬉しそうな笑顔。自宅に戻ってから受けた電話での元気な声未だ三週間自宅でユツクリ静養英気を養っているとはかり思っていたのに。

あの日の夕刻、和尚さんの読経をよそにジットお前の横顔を見ていた。黒々として立派な眉毛に大きな鼻。今にも話出しそうに薄く開いている様な唇六〇余年の人生を、幾多の苦難にも堂々と打ち勝って明朗闊達奔放自在に生きた見事な生きざまがそこにある素晴らしい男の横顔だった。

山岳部での同期で云えば鹿島槍に逝った中沢に次いでお前が二番目の早さで逝った。思えば去年の秋笹が峰からお前の小屋に向かう途中岩村田に

立ち寄って中沢の墓に一緒にお参りしたあの時から未だ一年も経っていないのに何という非情の定めなのか。脳出血以後の苦しいリハビリを経て見事に復活、少し未だ不自由が残る左足を引きずる様にしながらもその辛さや苦しさをグチル事もなく山にまた登れる事への喜びにあれ程興奮し感激し張り切っていたのに。

叱られるかも知れないけれど正直な所小浜はこんなにも山が好きだったのかと改めて思った位だもの。

先日、笹が峰ヒュッテの竣工式の時お前の写真と一緒に大四郎さんクロチャンと高谷の池経由思わぬ新雪を踏みしめながら、数十年振りに火打に登ってきた。

澄み切った秋晴れの朝、火打の頂上からの眺めの見事さといったら何と言ったら良いのだろ。間近かには焼山、妙高、黒姫、高妻、乙妻。遙かには白馬に始まる後立の山々それに槍穂高更に八ヶ岳連峰まで。俺達の青春の思い出イッパイの「いずれも親しき友達」の大歓迎に思わず興奮して時の経つのを忘れたね。クロチャンがお前の写真をコツコツ叩きながら「おい小浜見えるか！」って顔に似合わぬ優しい声をかけていたがお前もきつと一緒に楽しんでくれた事と思う。

今年も間もなく終わる。去年がそうであった様に皆んなで集まって酒をのみ、さて来年のメインイベントを何処の山にするか、年相応実力相応のホドホドが一つの目安ではあっても少しずつ欲も出て多少骨のある所にも行ってみたいとか楽しい楽しい話がまた始まる。

口惜しいだらうね、切齒扼腕だね、きつと。いなくなつたお前が悪いんだよと意地悪の一つ

も言いたい所だけど俺達だつてとても淋しく無念の極み口惜しさの極みだ。

俺がまた山歩きを始める様になつたのは、今や毎夏恒例となつた小浜小屋での集いと日帰り山行、それにお前の物凄いはかりの情熱、あれが契機だつた。

今年はお前の病気もあり流れてしまつたが来年はお前がいなくても百子さんにお願ひして大事な大事な来年のメインイベントとして是非再開したいと思つている。

小浜よ お前は今どの辺りを逍遙してるのか。ヒマラヤのシエルバ達は死者の魂は必ず山に戻ると思つているといふ。

俺達はこれからも小浜ベースと言つてる、ユックリしたヒッチを刻んで色々な山に出掛け楽しむ積りだ。大好きなお酒を抱えて何処かの山の頂で優しく笑つて俺達を見守つてくれ給え。

そして何時かまた逢おう。

合掌

## 仲間の真ん中 小浜を失うの記

酒井 尚平

「旅の空から富士山見たら 遠い故郷のあの娘を思つた。」 田舎育ちと笑わいでおくれ あの娘気高い優すがた。

小浜の四十九日の仏前で仲間と彼の好きな歌を唄つた。途端に百子さんから一声「お父ちゃんの方が巧い」。そつたよ百子さん。おれもそう思ひながら唄つたんだ。

「小浜、山岳部の生活ほど楽しいことがこの先あるんかいな」と昭和三十六年の卒業目前に彼に聞いたことがある。彼は例のやや説教調で「おい酒

井、心配するな。四十には四十なりの、五十には五十なりの楽しいことが必ずあるから」と。

そつたつたよ小浜。仕事もお互いの道で大いに楽しんだ。そして五十になつたら 小浜小屋ベースの山登りが戻つた。昔のようにながむしやらではないが一歩一歩を楽しむ山を覚えたな。仙丈以来、おれは小浜の脚の調子にあわせるようにトツプで歩くのが習慣になつた。身体が小浜ヒッチになりきつてしまつたぜ。ゆっくりゆっくりと小浜を真中に仲間と歩いた。

おい小浜、六十には六十なりの七十には七十なりの楽しみをみんな楽しんで善だつたのに。なんと寂しい辛いことなんだ。

最後の会話覚えてるかい。「何で俺はこんなに痛い辛いおもいをしなきゃならんのだ」

「それはな 小浜が普通の人より何倍も何倍も楽しいおもいをしたからなんじゃないのか」

彼は「うん」といいながら黙つてにこつと微笑んだ。

北山の藪漕、琵琶湖周航、平等院の鐘撞、宝塚のかぶりつき、笹ヶ峰合宿、剣岳早月尾根、槍岳北鎌尾根、斗六のどぶろく、新八の選挙、北沢峠の娘、編笠のアイゼン、大泉小浜小屋、瑞牆の岩肌、権現の約束やさしい大男との足跡永遠なり。

合掌

## 編集記

一五号の発刊が予定の期日に間に会いませんでした。編集者としてお詫びいたします。世上で騒

がれた二千年問題のせいではないのですが、個人的な事情で遅くなりました。しかしこの文を編集して私自身のパソコンでも幾つかの部分でおかしくなっています。全ての機能をチェックしたのではありませんので、これからまだまだ問題が出てくることでしょう

昨年もいろいろな事件が起りました。特に技術的な問題が記憶に残ります。多くの問題が密室的な所で発生しているような傾向が認められるのではないのでしょうか。そして問題が発生しても第三者を入らず、身内で始末しようとする傾向が顕著です。

第三者に委託できないのはよほど内部がひどいのか、あるいは第三者を信用していないのか。他人を信用できないのは自分が信用に値しないので、他人も同じだと思つたのでしょうか。わがACKも密室的にならないことを願っています。

小浜維人会員への追悼文が同期の会員より多数寄せられました。遺族の方々に心から哀悼の意を捧げます。

沖津文雄

編集委員

沖津文雄 吹田啓一郎、竹田晋也

発行日

二〇〇〇年一月三〇日

発行所

京都大学学土山岳会

京都府左京区吉田本町

京都大学工学部建築系

吹田啓一郎 気付

製作

京都市北区小山西花池町一八

(株)土倉事務所